

事業番号	162
------	-----

平成27年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名		子ども体験活動事業						担当部	こども未来部		
	会計区分		一般会計		事業類型	実施計画事業以外			担当課	こども政策課		
	事業期間		平成13年度		～平成31年度以降			担当係	青少年育成係			
	総合計画 分野別計画	主目的	3 教育・子育て 13 子育て支援 4 健全な青少年を地域で育てます									
		副目的							実施計画対象			
	予算区分		款	10	項	5	目	4	大	4	中	3
	根拠法令・個別計画		第3次小牧市生涯学習推進計画									
	目的 (対象をどのような状態にするのか)		子どもたちが体験活動を通じて、子ども同士や大人との交流により社会性を育む。									
	内容 (手段)		◆26年度実施内容 ○こども自然体験活動事業 ・地域の方の参画により運営委員会を設置し、企画運営により事業を実施した。 自然体験活動(じゃがいもづくり、もち米づくり、魚とり、さつまいも掘り、 兒の森里山体験、親子自然観察講座、中高生サークル冬祭りイベント) ○学校外活動運営事業 ・子どもが参加するイベント・プログラムに、ポイントラリー制度を導入し、30ポイント以上の児童生徒にピンバッジを贈呈した。 ・ジュニアセミナーとして各種体験講座を26講座開催し、こどもの体験機会の充実を図った。 ※各事業の事務局を市が担い、職員は、市民と協働で事業に参加・運営した。 ◆26年度直接経費の内訳 こども自然体験活動事業委託料(4,124千円) 学校外活動運営事業委託料(1,732千円) ◆27年度直接経費の内訳 こども自然体験活動事業委託(3,997千円) 学校外活動運営事業委託料(3,019千円)									
受益者負担		有		受講料、保険料等								

コスト				単位	H24決算額	H25決算額	H26決算額	H27予算額
	費用	直接経費		千円	6,601	6,694	5,856	7,016
		正職員	従事者数	人	0.50	0.50	0.50	0.50
			人件費	千円	2,630	2,630	2,630	2,630
		その他職員	従事者数	人	1.00	1.00	1.00	1.00
			人件費	千円	0	1,662	1,406	1,560
		費用合計		千円	9,231	10,986	9,892	11,206
		対前年比		%		119.0	90.0	113.2
	財源	一般財源		千円	8,164	10,060	9,159	10,439
		国・県支出金		千円	0	0	0	0
		その他財源		千円	1,067	926	733	767

業 績	活動指標名	単位		H24	H25	H26	H27
	自然体験事業	回	目標	7	7	7	7
			実績	7	7	7	
	ジュニアセミナー	講座	目標	25	25	25	25
			実績	25	25	26	
			目標				
			実績				
	成果指標名	単位		H24	H25	H26	H27
	自然体験活動参加者数(約)	人	目標	—	—	—	—
			実績	2,000	2,000	800	
	ジュニアセミナー受講者数	人	目標	342	470	400	430
			実績	484	438	495	

事業の自己評価	平成26年度の実施結果	事業の達成状況	両事業共に、市民、講師との協働により円滑な運営を行うことが出来、目標を達成した。	
		事業実施における課題	ジュニアセミナーは定員制であるため、希望の講座を全ての児童が受講できるわけではない。人気が集中し、抽選となる講座がある一方で、定員割れとなる講座や、応募者が基準に満たず開催不能となる講座があった。	
		事業を縮小・廃止したときの影響	・こどもの成長過程に必要な様々な体験活動の場が無くなり、こどもの健やかな成長を阻害する。 ・両事業共に、保護者の認知度が高く、期待も大きな事業である。廃止の場合などは保護者の理解は得られない。	
	平成27年度の改善内容	27年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	ジュニアセミナーの開催会場をこども政策課所管施設に依頼し、新たに大城児童館、味岡児童館、西部コミュニティセンターにおいて、5講座を開催する。	
	平成28年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
		判定理由	様々な体験の機会を通して、子どもの豊かな情操や、親以外の大人との交流を通じての社会性を育む機会の提供は、子どもの成長過程にとって重要であり、また、事業に関わる子育てが終了した世代の大人たちにとっても、改めて子どもと触れ合う貴重な機会とすることができる。	
		28年度以降の改善案	28年度より、会場の一つである堀の内体育施設が使用できなくなる。ダンス、太鼓などの人気講座の開催が危ぶまれるため、新たな会場探しや、別講座を企画する必要がある。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。 複数講座を一括して委託しているが、講座ごとの委託内容・金額等をチェックするなどして、本市が目指す「こども夢・チャレンジNO.1都市」の実現に向けて事業改善を図りたい。 また、自然体験活動のじゃがいも作り、米作り、さつまいも掘りは、市内の小学校や保育園でも実施しているところがあるため、小学校や保育園での実施状況を把握し、事業実施の必要性や効果などを再確認する必要がある。